

# 二葉

## 東京支部だより

### 東京支部の継続と活性化の努力を

東京支部長 木下早苗



昨年(2012年)の日本列島は未曾有の大災害に遭遇した年でした。同窓生の中には実際に被害に遭われた方もおられると伺いました。心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

ことになりました。いろいろな経緯の末の結論でしたが東京支部に微々たる力ではありましたが貢献出来たことに、今は満足しております。ご協力くださった会員の皆様に心より感謝申し上げます。

東京支部は、諸先輩の献身的な努力で昭和25年に結成され、その後60年の輝かしい歴史を築いてまいりました。しかしながら近年の東京支部は課題が山積するようになりました。そのことにつきましては、毎年改善の努力を続けてまいりましたので、

主要内容と今後の課題につきましてもここに報告させて頂き、会員の皆様のなご一層のご理解とご協力をお願いする次第です。

改善にあたっては「同窓会とは何か」「支部活動とは何か」「時代にあった活動とは何か」を探りつつ「役員の仕事の物心両面の負担軽減」を図ってまいりました。

・名簿のデータベース化  
・役員活動費の保障  
・総会資料送付の業者委託  
などです。

これらの改善は、役員・幹事の仕事を大変やりやすくなったのと同時に、支部長選出学年の負担が大きく軽減されました。

だれにでも気軽に役員を引き受けてもらえる条件を整えてまいりましたことは、会員の皆様にきちんと理解して頂き、積極的な評価をして頂きたいと思っております。

とは言えまだ沢山の課題があります。  
・卒業生の減少

少子化の影響で卒業生が減少しているばかりでなく、東京(関東一円)で生活する卒業生も激減しています。10年後の会員数を予測しながら、活動を進める必要があります。

・職員を持つ会員の増加  
役員会、幹事会、総会は平日開催のため、ますます出席が困難になってきます。定年の延長も考えると、役員選出年齢も検討していかなくてはなりません。

・男性会員受け入れ体制作り  
他支部などでは、男性会員の参加がみられるようになって来ました。男性も参加しやすい環境を早急に整える必要があります。

・同期会未組織学年の増加  
組織化困難の回生には支部として何らかの応援をして行く必要があります。

今後これらの課題について継続的に検討してまいります。支部活動の土台は同期会です。会員の皆様には是非「同期会の活性化」をよろしくお願いいたします。

### 平成23年度 東京支部役員



- 会計 村松美弥子 (24回生) 副支部長 小松喜久子 (21回生)
- 会計 竹本 恵子 (24回生) 副支部長 内田志つ子 (21回生)
- 記録 櫻井佳代子 (29回生) 支部長 木下 早苗 (15回生)
- 記録 安藤恵美子 (29回生)
- 記録 阿部久美子 (29回生) 副支部長 北村 幸子 (15回生)
- 会計監査 杉浦 澄尾 (18回生) 市川みどり (18回生)

### 平成24年 東京支部総会のお知らせ

日 時：平成24年 5月22日 (火) 10:30~15:00

会 場：日本青年館 (新宿区)  
4 F ホテル宴会場「アルデ」

☎ 03-3475-2525

講演講師：遠藤真弓氏 (高校39回生)

演 題：「と川石人語り」

会 費：5000円 (昼食パーティー)



### 本部定期総会のお知らせ

日 時：平成24年 4月21日 (土) 9:30~

会 場：ホテル 紅や

講演講師：川合優子氏 (高校17回生)  
『家族の絆 共に歩む音楽の道』

会 費：6000円

申 込：本部事務局または支部長

☎0266-52-9595

# 総会報告

平成23年

平成23年度副支部長  
北村幸子

平成23年5月24日(火) 東京支部総会が日本青年館において、生憎の雨の中、百八十五名の出席をもって開催されました。

来賓として母校の古厩校長、同窓会本部より河西会長、金澤副会長、今井副会長、河西副会長、恩師の小町谷先生にお越し頂きました。

稲村副支部長の開会の言葉のあと、17回生の川合優子さんのピアノ伴奏により校歌斉唱、物故者への黙祷に続き、支部長挨拶で役員人事が今までの様には順送りであり、きなくなりましたこと、男子が同窓生の中に含まれるようになってきたこと等話されました。また、今年お亡くなりになった4回生で平成6年度支部長の林芳子さんのご主人、林尚孝氏よりの寄付とお手紙が読み上げられました。その中には奥様がご心配なさっていた若い人たちが同窓会に無関心になったこと、維持費が減ったことなどが書かれておりました。来賓紹介で古厩校長(二葉在任三年目)より、男子生徒が入って26年目、割合は36%、当初は線の細い男子が多かったが、現在は活躍する男子が増えていること、二葉ではキャリア

教育を推し進めていること、在校生には可能性を秘め、高い能力をもっている子が多いこと等のお話がありました。河西同窓会長のお話では、関東以北の東日本大震災で被害にあったと思われる同窓生、三十数名にお見舞いの手紙を出したところ、半数位の方からお返事があったとのことでした。また、二十数年しまい放しだったお雛様(昔、私たちが高校生の頃、一年生が講堂に飾ってひな祭りをしたあのお雛様です)が倉庫から見つかり、昨年の二葉祭で飾ったそうです。さらに大村はま先生作詞の二葉だけの「ひなまつりの歌」の楽譜も見つかったということです。

第一部定期総会は19回生亀松ひろみさんが議長に選出され、進行しました。質疑応答では23年度予算案が維持費収入より支出が多いので、このペースでいくと将来不安という声があがりました。維持費を値上げしてもよいのではという意見も出され、検討課題とすることになりました。

第二部は劇団文化座の佐々木愛氏の講演、その後、事前に希望した学年と佐々木愛さんとの記念撮影が行われました。

第三部茶話会では、高校2回生12名の皆様に花束が贈られ、代表の今井みつ子さんが挨拶されました。最後は会歌「白き翼」を斉唱して閉会となりました。次回も参加してよかったといわれるような総会にしたいと思っております。

## 平成22年度諏訪二葉高等学校同窓会東京支部決算報告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

### 1. 本会計

#### ＜収入の部＞

(単位: 円)

項目	予算	収入	備考
1 前年度繰越金	3,024,035	3,024,035	
2 維持費	1,500,000	1,252,190	
3 寄付金等	0	25,000	高女34回生 高校8回生
4 雑収入	1,000	966	貯金利息
収入合計	4,525,035	4,302,191	

#### ＜支出の部＞

(単位: 円)

項目	予算	支出	備考
1 総会講師謝礼・お車代	120,000	120,000	片野 満様
2 会場費・諸経費	100,000	61,127	総会資料印刷代 会場代等
3 支部便り作成費	140,000	160,201	「二葉」第15号 3,000部
4 弔慰金	10,000	7,679	弔文レタックス 弔電
5 役員通信費・交通費	160,000	139,060	
6 役員会費	140,000	112,286	役員会14回(4人会含む)
7 幹事会費	220,000	147,445	幹事会2回
8 送料・通信費	300,000	248,981	総会案内送料 宅配便 メール便 はがき代等
9 印刷・コピー費	140,000	121,935	封筒・総会案内資料印刷代 用紙・インク・コピー代等
10 事務用品費	10,000	5,101	ファイル・ラベル等
11 渉外二葉関係	20,000	17,620	本部総会交通費
12 連合同窓会	100,000	87,080	東京同窓連・南信同窓連
13 雑費・予備費	10,000	4,000	振込用紙印字代等
支出小計	1,470,000	1,232,515	
14 東京支部同窓会基金積立金	30,000	30,000	
15 次年度繰越金	3,025,035	3,039,676	
支出合計	4,525,035	4,302,191	

### 2. 東京支部同窓会基金

(単位: 円)

項目	予算額	実行額	備考
1 前年度繰越金	2,762,000	2,762,000	
2 22年度積立金	30,000	30,000	
合計	2,792,000	2,792,000	次年度繰越金

上記の通りご報告いたします。

平成23年3月31日

会計係 常松 竜子 ㊟  
秦 礼子 ㊟

上記は会計監査の結果間違いありません。

平成23年4月11日

会計監査 杉本 澄江 ㊟  
小松 喜久子 ㊟

### ※総会会計報告

(単位: 円)

収入	
・会費(5,000×193人)	965,000
・本部より会場費	10,000
・本部より御祝儀	10,000
・本会計より	181,127
合計	1,166,127
支出	
・シダックスレストランマネジメント会食代	927,465
・講師謝礼	120,000
・諸経費	118,662
合計	1,166,127

### 平成23年度 東京支部活動内容

年月日	事項	主な協議事項
6月15日	第1回役員会	東京支部総会の反省、会費維持の取組について 年間事業計画
8月2日	第2回役員会	第1回幹事会準備、支部だより発行計画について
8月30日	歴代正副支部長会	会則、運営内規改正に関する意見 今後の支部活動の在り方について (役員選出の困難さへの対応)
8月30日	第3回役員会	第1回幹事会準備・役割分担
9月6日	第1回幹事会	23年定期総会報告、23年事業の進行状況 同期会活動報告(高27、高24、高3、高14、高12、高15、高8)
11月8日	第4回役員会	会計中間監査、支部入会・維持費増への取組 次年度役員・幹事の選出について
12月11日	正副支部長4人会	同期会開催呼びかけへの取組、支部入会呼びかけ 資料準備
平成24年		
1月31日	第5回役員会	第2回幹事会準備
2月14日	第6回役員会	第2回幹事会準備
2月27日	第2回幹事会	中間会計、会計監査、東京支部だよりの披露 総会関連事項検討、次期役員(案)について
3月27日	第7回役員会	予定
4月20日	第8回役員会	予定
5月20日	第9回役員会	予定
5月22日	平成24年定期総会	予定
会報 東京支部だより「二葉」16号発行 本部理事会及び本部定期総会出席 南信同窓連及び東京同窓連出席		

平成23年  
総会講演

# 「劇場のそとで」

講師 佐々木 愛氏



自己紹介 く生き立ち、初舞台

私の父は演出家、佐々木隆、母は女優の鈴木光枝です。両親は井上正夫演劇道場で知り合い、戦時中の暗い時代だからこそ、ロマンを求める作品をやりたいと父を中心に、昭和十七年に劇団文化座を



佐々木愛さんを囲んで  
80歳のお祝を迎えた高校2回生

一年間の抑留生活をした後、引き上げてまいりました。当時三歳半の私はそのときの母の姿をよく覚えています。母は大陸に渡るときに「大陸の花嫁」の最後の人々と乗り合わせた体験から、その悲惨な生活を「三人の花嫁」という作品にしました。

私が小学校の入学時に父からは「劣等感、優越感を持たずに、コモンピープルになりなさい」といわれ、母からは「女でも手に職を持ちなさい、経済力を身につけなさい」といわれました。そのため小学校の頃から何かにならなければならぬと思っていました。

高校二年生の時に担任の先生から女優に向いているといわれ、ただはつきりとした目的はありませんでしたが、十年勉強するつもりで劇団の研究生になりました。高校三年生になり「荷車の歌」で初舞台、全国公演をやりました。その頃の私は生意気盛りで大人に対しての不信感もありましたが、朝から晩まで働きづめでも不平不満も言わない劇団スタッフや、暑さ

寒さの中並んで真剣に芝居を観に来てくださる観客に感動して舞台にかけてみようと思いました。

## 舞台女優として

く母の思い出、これから

お芝居は客席にいる人と毎日が勝負であり、限られた空間でやる舞台にたつと、時間を割いて来てくださったお客様のために何でもやるという気持ちになります。これまでにも、転倒による怪我、鼻血、高熱など体調の悪いこともあり、それを押し切って舞台上に上がったこともあります。舞台は常に努力して鍛錬していないとたてません。今後テレビや映画に私が現れたならば、舞台で長い台詞が言えなくなつたものと思つてくださいます。(笑)

母は四十九歳で夫を亡くしてから八十八歳で亡くなるまで、それまでは舞台以外は夫に頼りっぱなしで主体性のない人だったのですが、何でも一人でできる人になりました。お芝居で金髪にして良い評判を得て以来金髪で通し、洋服も性格も派手になりました。下手と言われていた字も夫の死後達筆と言われるようになりました。母をみていて「人は努力すれば死ぬまで成長し続けることができる」

と確信しています。

今年是一月から「てれけつつのば」の全国ツアー中で、(大震災の)三月十一日は豊橋の初日でした。震災以降はこんな状況の中、お芝居をしていて良いのだろうかというストレスを抱え、お客様方も観にいい良いのかという気持ちでした。しかし、「てれけつつのば」は、店が焼かれてなくなつてしまいましたが皆の絆は残るといふあらずじで、震災からの復興につながる内容のため、終わつたときとても大きな拍手が起こります。七月八月は東北公演を予定しておりますので、頑張らなければと思つています。

## 文化座所属の有賀ひろみについて (19回生亀松ひろみさん)

文化座は来年で創立七十周年、私も初舞台から五十年であり、劇団員には自立するように、自分たちで企画するように言っています。それに対し有賀ひろみが宮本輝作「骸骨ピルの庭」を提案してきた時は、二人の青年が戦争孤児を育てた話でもあり、戦争についての母の気持ちに通じるものがあり嬉しかったです。ひろみは今年舞台生活四十周年、不器用ですがずっと努力し続けて

きて、突如花開きました。劇団の後輩にも「ひろみはね、初めは本当に不器用だったの。でもね、こつこつやってきたから花開いたのよ」と言っています。ヨーロッパでは舞台生活四十周年で花を贈る習慣があるので、ひろみにも花を贈りたいと思います。四十年間努力して辿り着いた舞台なので是非観てやってください。

- 佐々木 愛氏プロフィール
- 1943年(昭和18年) 演出家・佐々木隆、女優・鈴木光枝の一女として東京に生まれる
- 私立和光学園高校を卒業後、劇団文学座に入座
- 1961年 初舞台
- 1978年「サンダカン八番娼館」で文化庁芸術優秀賞受賞
- 1982年「越後つづし親不知」で芸術祭大賞、紀伊国屋演劇賞受賞
- 1987年 文化座代表に就任
- 2008年「てれけつつのば」で文化庁芸術大賞受賞
- 2009年「こんにちは、おばあちゃん」で舞台生活五十周年
- 現在、劇団創立七十周年を控え全国各地で舞台公演の毎日を送っている
- 著作「劇場のそとで」「愛・夢ばなし」
- 母・鈴木光枝との演劇史「女優二代」(大笹吉雄著) 2008読売文学賞「評論・伝記賞」受賞

# 二葉は今

## 母校を訪ねて

木下 早苗 (高校15回)  
小松喜久子 (高校21回)  
内田志つ子 (高校21回)

平成23年7月10日、高校卒業後43年ぶりに母校を訪ねました。おりしも二葉祭の最中でしたが、校内を自由に参観させていただくと共に、校長先生をはじめ、先生方やPTAの皆さん、生徒さんからお話を伺うことができました。変わりゆく母校の現状について報告します。

## 美しい校舎と景観

平成14年完成の白亜の新校舎は旧校舎の面影を残す美しいフォルム、アーチ型のエントランスを抜けると正面玄関ホールにはステン



賑わう二葉祭

ドグラス「飛翔」、明るい吹き抜けには、辰野登恵子画伯の絵画等が飾られ、優しい光が射しています。前庭には二葉のシンボル「すこやか像」、中庭には「揺籃」の彫刻があり、ここが県立高校とは思えない美術館にでも入ったような雰囲気です。南校舎は床、腰壁、ドア等も全て木製であり、落ち着いた内装です。北側には私たちの時代にはなかった武道場や合宿所もあります。昔、確か校舎内に温泉があったはずと探していると、英語科、中村先生が別棟で「二葉温泉」というお風呂があるということを教えて下さいました。温泉成分がやや強くピリツとするので肌の弱い生徒は要注意ということでした。北校舎には最近できたという川口よ志子記念「学習室」がありました。生徒さんはここで自習をするのだそうです。高台の校舎、教室の窓際から眺める上諏訪

の景色は相変わらず気持ちいいものです。この自慢できる学び舎をいつまでも大切にしたいそんな思いに駆られました。

## 二葉祭と今どきの二葉生

第52回二葉祭のテーマは「つながりがり」この指とまれ〜でした。東日本大震災後を踏まえて、家族、地域、今まで話したことのない人、東北の人たちとつながりたいという思いが文化祭全体にあふれていました。多様な展示発表や模擬店、ステージが催されていましたが、やっぱり二葉生は真面目なんでしょうか、祭りというのに浮ついたところは一つもなく、来客者にはホスピタリティー豊かに接してくれました。

この日、グラウンドには高く積まれた木材が用意されていました。その片隅で女子生徒が大きな簡易プールに温泉のお湯を溜めているので尋ねたところ、夕方行われるフィナーレの用意をしているとのことでした。文化祭の最後、ファイヤーストームを囲み、男子はTシャツと水着、女子は水着の上にお披露目のドレスを着てフォークダンス等をした後、泥かけっこをするとのことでした。その後、泥をこの温泉プールで流すのだそうです。まさに青春謳歌、あの二葉祭にかける情熱、質実剛健の校風は続いていたのでした。

## 昭和のおひなさま

PTA・同窓会の展示コーナーには二十数年ぶりに存在が明らかになったという昭和初期のひな人形が飾られていました。この二葉祭で音楽部が、大村はま先生作詞の「ひなまつり」(昭和11年)の歌を披露しました。女子高時代、毎年三月に「ひなまつり」をしていたことを思い出しました。



## 長野県高等学校再編とこれからの二葉について

(古厩校長先生より)



長野県はまさに究極の生徒減少時代を迎え、県立高校の規模の配置の適正化というところで、高校の統合、再編が進んでいます。

一方で保護者の意識の変化と交通網の発達で諏訪地方の子ども達も中学から山梨県の私立の中高一貫校(甲陵や駿台甲府など)に進学したり、高校も松本深志をはじめ、松本市内の高校に進学したりする生徒も増えてきました。おりからの経済不況と、かつては教育県とよばれた長野県の学力低下問題も絡んで、諏訪地方全体元気が

ないとの校長先生のお話でした。

このような中でお隣の諏訪清陵高校は平成26年から併設型中高一貫校(中学は2学級80人募集)に転換します。諏訪二葉高校がこれからどういう道を選んでいくか難しいかじ取りになるようです。

古厩校長先生は伝統や建学の精神を大切にしながら、二葉の特色化を一層推し進めているとのことでした。既にIプロジェクトを夢をかたちにとり、この時代を二葉に合せて様々な学校改革が実行されています。真面目で優しい二葉の生徒ですが、もつと欲をもち、志高く目標を達成してほしいとのことでした。校長先生のその願いは二葉生の中に浸透し結果も出てきているような実感をもち、二葉を後にしました。

\*\*\*

今回は急で訪問できませんでしたが、次回は本部同窓会の皆さんに是非お話を伺いたいと思います。

活躍する同窓生

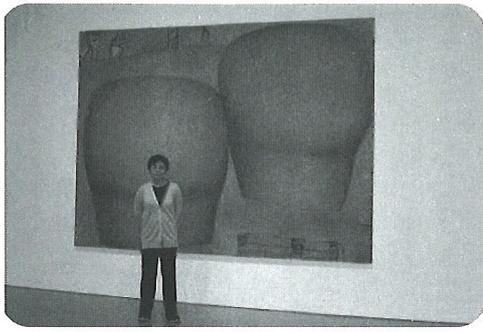
辰野登恵子さん (20回生)

日本の現代美術を代表する画伯である辰野登恵子さん、今回はその素顔を紹介すべく、平成23年10月7日、辰野登恵子新作展会場である銀座・資生堂ギャラリーにてお話を伺いました。

(インタビュアー 内田志づ子)

Q 現在の創作活動について教えてください。

自宅アトリエにて制作に励むとともに、インスピレーションが湧くため世界各地で個展を開いています。20年前からロンドン、スウェーデン、サンパウロ、ニューヨーク、最近では韓国・中国等アジアでも開いています。経済発展を遂げた中国等はエネルギーがあり、成功を望むアーティストが大勢います。



《ばら色の前方 後方》 資生堂ギャラリーにて

ます。また、多摩美術大学でも週1〜2回教えています。

Q 絵画を志したきっかけは何ですか、二葉高時代はいかがでしたか？

小さい頃、美術の点は悪かったです。私は納得するまで描く性格でなかなか上手いきませんでしたが、小学校高学年の時、信州大美術出身の先生によって潜んでいる力を引き出されました。その先生は写生大好きで、諏訪湖や岡谷市役所(今はレトロな建物)近くの蚕糸公園によく行きました。そこで写生した絵がその先生によって学内コンクールのお秀作品に選ばれて絵が好きになりました。

その後中学生のとき油絵の具一式を買ってもらい油彩画をはじめました。

二葉では美術科の二木先生の影響が大きかったです。二木先生はかっこよかったですね。(芸大出の若い二木先生は当時、二葉生の

辰野登恵子プロフィール

1968 諏訪二葉高校卒業  
1974 東京芸術大学大学院を修了  
1996 第46回芸術選奨文部大臣新人賞

1973 より日本、世界各地で個展、グループ展を開く  
現在 多摩美術大学教授

主なパブリックコレクション

東京国立近代美術館、東京都現代美術館、横浜美術館、埼玉県立近代美術館、資生堂アートハウス(静岡)、愛知県立美術館、国立国際美術館(大阪)、外務省、フレデリック・R・ワイズマン美術財団(アメリカ) ※諏訪二葉高校正面玄関ホール「UNTITLED 97-6」

人気ナンバー1でした)二木先生はこの個展のトークショーにも来て発言して下さいました。今でもお元気ですよ。

Q 画家として安定した地位を築きながら、今なお次々と新しい作品を生み出す辰野さんの原動力は何ですか？

体力的にもきつくりありません。負けず嫌いなのでしょうね。チャレンジの連続です。いくら個展をやっても満足しない。パターン

同期会だより

アマリスの会

古俣松子(高校3回)

私達高校3回卒業生はまもなく傘寿を迎えます。

第二次世界大戦の終わる年の春、長野県立諏訪高等女学校に入学しました。戦後の学制改革により、諏訪二葉高等学校併設中学校に三年間、諏訪二葉高等学校に三年間、合計六年間を過ごすことになりました。

入学当時、校舎には軍需工場が同居、校庭は畑になっていました。学有林に薪ストーブ用の木を曳き出しに行ったこと、制服は手作りのヘチマ衿の上下だったこと等が思い出されます。

間もなく終戦となり、戦後の新しい教育が始まりました。その教育の中で、若くて順応性のあった私達は、あまり抵抗もなく自由

が決まらない。でもやはり絵がすきだからこそできるのでしょうね。私は大きい絵が好きなのですよ。(30号の絵の大きさにはびっくり、どうやって描くのでしょうか)

Q 今後の予定について教えてください。

2012年8月6日から、六本木の国立美術館で、写真家の柴田敏雄さんとコラボした二人展を行います。詳しくはHPをご覧下さい。

謳歌していた様に思います。

進学クラスと普通クラス、科目別選択制などで多少の戸惑いもありました。移動教室等というものもあり、手さぐりの戦後教育の始まりでした。

さて、私達同期生の集まり「アマリスの会」は一九六九年五月頃、数人の方々の努力で発足しました。その時の卓上にアマリスの花が一輪飾られてありました。

以後、紆余曲折四十年「アマリスの会」は絶えることなく引き継がれてきました。思えば隅田川の舟下り、秩父路のお寺めぐり、時にはホテルでの会食等々。六年間の長い二葉生活を共にした私達は、話ば尽きることがありませんでした。

あの二葉が丘の白樺や桜の春、冬は諏訪湖の下駄スケート等は楽しい思い出です。

母校の中庭に設置されている故・井上玲子さんの作品「揺籃」

インタビュアーを終えて

抽象画を描く名だたる画伯、気難しい方であるのではないかと予想していましたが、辰野さんは大変気さくで若々しく、エネルギーがほとばしるような方でした。やはり芸術家は年をとらない。元気をもらいました。紫やピンク、赤を基調にした綺麗な色や形の魔術にかかったような魅力的な作品はいつまでも印象に残り、心の奥から離れません。日本各地、世界各地にある辰野さんの作品を会員の皆様も是非ご鑑賞下さい。

は私達同期生の誇りとなつていきます。

傘寿を迎えようとしているこの頃は集まる仲間も減ってきましたが、それぞれ健康に留意し、これからも元気で過ごせることを願っています。

おわりに母校の同窓会並びに東京支部同窓会のご発展を心よりお祈り申し上げます。



同期会だより

「ふたば21」同期会

湯澤眞子（高校21回）

予想もしなかった東日本震災により急遽中止した今年の同期会を、余震で遠出をためらう落ち着かぬ中でしたが、皆さまの要望もあり、連休明けの五月八日に「ふたば21」の同期会を開くことができました。

日曜の赤坂「ざくろ」の静かな落ち着いた部屋で美味しい日本料理をいただきました。

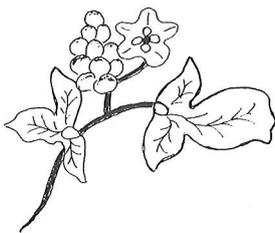
卒業後、初めての懐かしい友もいて再会を喜びました。ご自身やご家族の健康、親の介護の事など話題に事欠くことがあります。皆さんの和やかなその笑顔の中には心に秘めた御苦労も多々あったであろうにと、還暦を過ぎた今、それも年輪として伝わってきました。時が経つのも忘れて、だいこん坂を笑い転げて通ったときの乙女の頃に戻り、諏訪の香りがする友と語りう幸せ……なんと心地よいひとときでしょうか。

苦い思い出ばかりであったと恥ずかしく思っていた私でしたが、この友たちと一緒に諏訪二葉で学べたことの喜びと、そして何よりも二葉に通わせてくれた父と母に心から感謝した幸福な一日でした。



「ふたば21」同期会

東京支部同窓会の在り方が問われているところですが、私たち21回生は郷里との絆を大切にしながら親睦を深めることに力点をおき、皆さまがより参加しやすい魅力ある同窓会を目指したいと考えています。副支部長の内田さん、小松さんを積極的にバックアップして、いこうと声を掛け合っています。



謹んでご冥福を

お祈り申し上げます

(平成24年1月31日現在)

高女34 伊藤みつ江様(伊藤) H21  
高女37 村上富貴子様(福島) H21・11  
高女38 竹村 教子様(杉野) H21・12  
高校3 朝長 孝子様(丸茂) H23・8  
高校4 宮坂 五子様(河西) H23・4

高校5 入来院眞子様(山崎) H23・5  
高校7 小林たづる様(小林)  
高校7 百瀬 宮子様(宮坂) H23・9  
高校9 小林 良子様(山崎) H22・10  
高校10 金子瑠奈子様(蒲生) H22・12  
高校16 古畑千を里様 H22・3  
高校18 林 恵子様(小川) H21・10  
高校24 高梨 正子様(増沢)  
高校25 浅沼 長 様(五味)  
鈴木 恭子様(宮坂)

事務局だより

☆東京支部だより「二葉」と総会案内は基本的に維持費を五年間に一度でも払っていただいた方にお送りしています。払ったのに届かない場合は役員または幹事までご連絡ください。

☆東京支部は年千円の維持費で活動しています。引き続き納入にご協力ください。なお本部維持費とは別の納入になります。

☆支部だよりに掲載の「東京支部活動内容」については、これまでは前年度の活動を載せていましたが、お手元に届く時には二年前の活動になってしまつたため、今回から「発行年度の活動の様子」を載せることにしました。

☆本部定期総会への申し込みは東京支部が一括します。ご出席の方は支部長または本部事務局までご連絡ください。

編集後記

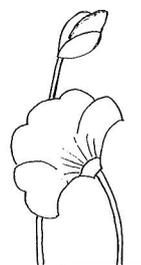
☆広報紙担当になった機会を利用して、できるだけ

足で「二葉」を取材してみようと心掛けました。現役二葉生も往年の二葉生も、皆、心豊かに過ごしている様子が、あらためて母校に誇りを持ちました。

☆東京支部の役員のみ手がいないことが深刻な状況です。

時代も変わり、同期会開催も困難な東京支部同窓生が多い中、輪番制で支部の組織維持のための活動に専念することはなかなか難しいものがあります。もう少し肩肘張らない同窓会の在り方を模索する必要を感じます。そんな中で、再度役員を引き受けて下さった先輩の皆さんにはただ感謝です。

☆忙しい中、快く取材や原稿執筆にご協力いただいた皆様に感謝しております。



イラスト・小田知恵(21回生)

図書紹介

評伝大村はま  
「ことばを育て 人を育て」  
刈谷夏子 著 小学館